



阿蘇山上観光復興ビジョン



平成29年3月

阿 蘇 市

目次

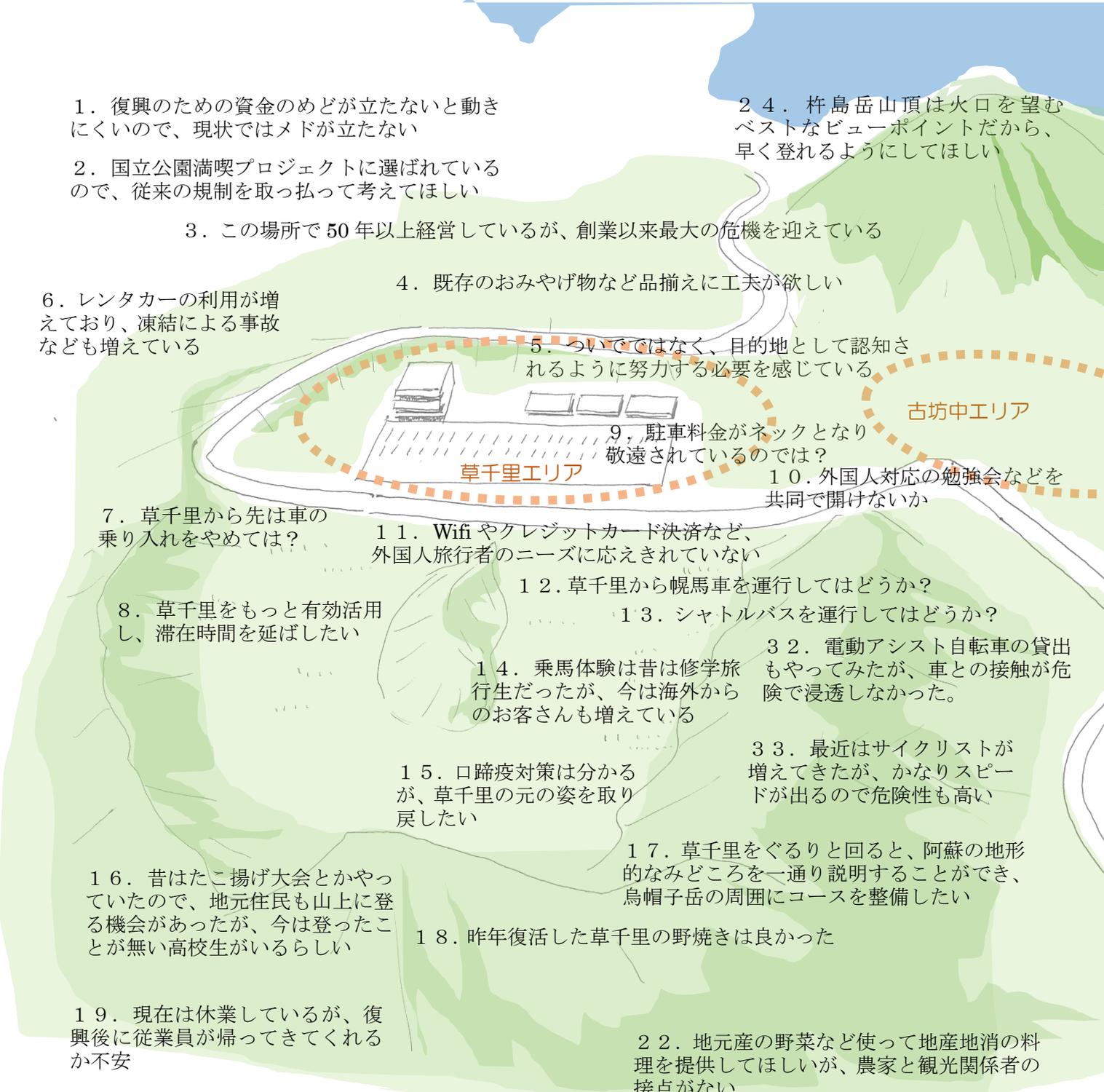
第1章	阿蘇山上の現状と復興への動き	1
1-1	阿蘇山上の現状の共有	2
1-2	阿蘇山上復興に関する提言や計画一覧	4
1-3	阿蘇山上復興ビジョン策定の流れ	6
第2章	阿蘇山上復興のための課題整理	9
2-1	阿蘇山上の課題の設定	10
2-2	阿蘇山上復興に関するソフト・ハードの アイデア(例)	12
2-3	阿蘇山上の来訪者像の変化	14
第3章	阿蘇山上復興の具体化イメージ	17
3-1	阿蘇山上観光復興ビジョン具体化のイメージ	18
3-2	阿蘇山上復興ビジョンの工程案	20
3-3	阿蘇山上観光復興ビジョンの推進体制	24
3-4	推進協議会に期待される検討の内容と 検討スケジュール案	28

第 1 章 阿蘇山上の現状と復興への動き

1-1. 阿蘇山上の現状の共有	2
1-2. 阿蘇山上復興に関する提言や計画一覧	4
1-3. 阿蘇山上復興ビジョン策定の流れ	6

1-1. 阿蘇山上の現状の共有

関係者の声（ヒアリングから）

- 
1. 復興のための資金のめどが立たないと動きにくいので、現状ではメドが立たない
 2. 国立公園満喫プロジェクトに選ばれているので、従来の規制を取っ払って考えてほしい
 3. この場所で50年以上経営しているが、創業以来最大の危機を迎えている
 4. 既存のおみやげ物など品揃えに工夫が欲しい
 5. ついでではなく、目的地として認知されるように努力する必要があると感じている
 6. レンタカーの利用が増えており、凍結による事故なども増えている
 7. 草千里から先は車の乗り入れをやめては？
 8. 草千里をもっと有効活用し、滞在時間を延ばしたい
 9. 駐車料金がネックとなり敬遠されているのでは？
 10. 外国人対応の勉強会などを共同で開けないか
 11. Wifi やクレジットカード決済など、外国人旅行者のニーズに応えきれていない
 12. 草千里から幌馬車を運行してはどうか？
 13. シャトルバスを運行してはどうか？
 14. 乗馬体験は昔は修学旅行生だったが、今は海外からのお客さんも増えている
 15. 口蹄疫対策は分かるが、草千里の元の姿を取り戻したい
 16. 昔はたこ揚げ大会とかやっていたので、地元住民も山上に登る機会があったが、今は登ったことが無い高校生がいるらしい
 17. 草千里をぐるりと回ると、阿蘇の地形的なみどころを一通り説明することができ、烏帽子岳の周囲にコースを整備したい
 18. 昨年復活した草千里の野焼きは良かった
 19. 現在は休業しているが、復興後に従業員が帰ってきてくれるか不安
 20. 山上だけの問題ではないので、内牧の人とも話したい
 21. 阿蘇全体のビジョンが欲しい
 22. 地元産の野菜など使って地産地消の料理を提供してほしいが、農家と観光関係者の接点がない
 23. 観光関係者が中心となって計画を立ててくれば協力できるのだが、今は呼びかけもない
 24. 杵島岳山頂は火口を望むベストなビューポイントだから、早く登れるようにしてほしい

25. 海外からのお客さんは、阿蘇駅から歩いて登る人も多い

26. 古い登山道を復活させてはどうか

27. 外国人は自己責任の概念が強いので立入禁止が効かない

38. もっと大分側からの誘客にも力を入れたらよいのでは？

39. 活火山に年間100万人来ているという事実は、他の自然公園にはない危険性があることを改めて認識しないといけない

40. 火山規制が厳しく、経営の見通しが立たない

41. お客さんに来てもらうためには、安心安全な観光地となるよりほかない

29. ヘリによる火口遊覧は近年需要が急激に伸びていた

30. 山上の歴史をもっとわかりやすく伝えたい

42. 阿蘇神社の修復が先なので、山上神社についてはすぐには手を付けられない

43. 神仏習合の歴史を伝えたい

31. 独立した観光案内所が欲しい

火口エリア

44. 修学旅行生を呼びたいが、安全が確保できないと他観光地との競争に負ける

34. 火口付近は噴石が飛ぶので、草千里の滞在時間を伸ばす工夫をするのがよいのではないか？

45. 今回の噴火を見ると、退避壕に逃げるだけでは不安なので、地下トンネルで逃げられないか

35. ジオパークの知名度を活かし切れていない

36. 夜の阿蘇山上をもっと活用できないか？

37. 阿蘇には火山・地震・水害すべての経験がある。これは阿蘇ブランドのすばらしさを逆説的に証明してくれる。なぜなら、それでも人が住み続けているのだから。それは災害と暮らす日本の縮図だ

46. 阿蘇山上の復興は、熊本地震からの復興の目玉プロジェクトだが、これまでは関係者が集まって話をする場が無かった。復興ビジョンを書くだけではなく、その場を継続して行ってほしい

1-2. 阿蘇山上復興に関する提言や計画一覧

地震による大規模かつ深刻な阿蘇山上の観光資源への被害を受け、以下のような提言や復興のための計画が公表されています。

最も広範囲に対して提言しているのは熊本県による熊本観光復興会議のものです。次に、阿蘇くじゅう国立公園の国立公園満喫プロジェクト（環境省）、阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププロジェクト 2020（環境省）では世界水準を確保できる上質化を目指しています。特に阿蘇における観光復興の在り方についての提言をまとめた「阿蘇」みらい創造懇談会提言があります。また、阿蘇山上の民間関係者9社で構成されたグループによる復興計画があります。

③阿蘇全体に関すること

■国立公園「阿蘇」みらい創造懇談会提言

- 1) 人々の営みに支えられた阿蘇の景観と生物多様性を次世代へ
- 2) 熊本の阿蘇から、九州の阿蘇へ
- 3) 災害を記録し、変化の記録を継続する 災害の記録を展示し、後世に活かす
- 4) 震災に学び、地域社会とともに災害への対応力の高い地域復興モデルをつくる
- 5) 農畜産業と観光が支え合い、地域経済の好循環を生み出す
- 6) 阿蘇の観光スタイルの多様化に対応する
- 7) 世界への情報発信、外国人の受け入れ体制を整備
- 8) 次世代を育て、次世代に引き継ぐ

②阿蘇くじゅう国立公園に関すること

■国立公園満喫プロジェクト

（ステップアッププログラム2020）

- ・世界水準のナショナルパークを目指し、インバウンドの獲得に向けて国立公園を活用するプロジェクト

①熊本県全体の観光復興に関すること

■熊本地震からの観光の創造的な復興の実現に向けて ～熊本観光復興会議～

1. 地域の多様な主体が連携することで、金融機関や各種ファンドからの支援を引き出せるような新たなビジネスを生み出し、新たな雇用や地方創生につなげる
2. B to C へのシフトでホテルから街への外出を促し、消費拡大を促す
3. 食をテーマにした地域資源の再構築による攻めの観光の実現
4. 熊本城、阿蘇観光の再生に向けたストーリーづくり

④阿蘇山上に関すること

■阿蘇山上・草千里観光推進復興グループによる復興計画

- 阿蘇山上一体を「阿蘇山上ピレッジ」と名付け、その中に「火口エリア」「草千里エリア」「古坊中エリア」の3つゾーンを設定し、それぞれの地区の特長を生かした復興を目指す
- 火口エリアはロープウェイによって結ばれ、火口を中心とした自然体験や、黒牛などの素材を活かした食の体験、山岳宗教などを体感
- 草千里エリアは無料シャトルバスで結ばれ、草原の自然を学べるほか、乗馬体験もできる。地産地消による独自メニューの開発を行う。火山博物館の調査研究機能を強化し、外国人にもわかりやすい有用な情報を発信していく
- 古坊中の阿蘇山上神社、西巖殿寺の歴史を体感できるよう整備する

- 阿蘇を象徴するビューポイントの上質化
- 草千里ヶ浜・中岳火口／行政機関や地元民間事業者等をメンバーとする会議を設置し、中核的なビューポイントである草千里ヶ浜等の施設改善に向けた検討を行う
- 火山博物館の活性化 ・ビジターセンターの整備 ・夜間アクティビティ（天文台等）の整備 ・ドローンによる火口映像の放映 ・ロープウェイ乗り場等の改修
- 退避壕やトイレの更新 などを検討

- 兼業農家が観光の担い手として参加
- 世界的に有名な観光地と競争できる大胆な戦略
- 世界中からの投資による観光成長、ITの活用によるグローバルな展開
- 阿蘇らしい景観の保全 など

1-3. 阿蘇山上復興ビジョン策定の流れ

本委員会では、今年度中に3回の会議を開催しました。その中でより上質な観光地としての阿蘇山上の将来像を描いていきました。

1回目では、阿蘇山上の現状と復興に関する動きについて共有し、

2回目では阿蘇山上の観光体験を上質なものとし、観光客の滞在時間を伸ばしていくために取り組むべきアイデアをハード面、ソフト面から検討しました。

3回目では、それらの検討を受けて行う取組の工程表を検討しました。具体的には国道57号の完全復旧までの時間（現時点では今後4年間程度）の工程表とし、行政や民間の関係者の役割分担まで整理をしました。

（仮）より上質な観光地としての阿蘇山上へ

第1回会議 現状の共有

1. 阿蘇山上の現状
（関係者ヒアリングより）

2. 復興に関する提言・計画

- ①熊本観光全体に関する
こと
（熊本観光復興会議）
- ②阿蘇くじゅう国立公園
に関する
こと
（国立公園満喫プロジェクト・ステップアッププロジェクト2020）
- ③阿蘇全体に関する
こと
（国立公園「阿蘇」みらい創造懇談会提言）
- ④阿蘇山上に関する
こと
（阿蘇山上・草千里観光推進復興グループによる復興計画）

第2回会議 取組課題の整理

■課題の設定

山上での滞在時間をより豊かで上質なものとするために、どのような提案や仕掛けが必要となるか？

そのために何か不足しているものはないか？

既存のもの改善でできることがあるか？
外部の人からどのような助けが欲しいか？

A ハード面の対応

（例）

- ・トイレの洋式化
- ・退避壕の整理による安全確保
- ・新規ルート整備による避難経路の確保

など

B ソフト面の対応

（例）

- ・外国人対応（案内パンフレット、カード決済の完備など）
- ・安全を伝える情報発信
- ・阿蘇山上らしい食事メニューの開発

など

第3回会議 工程表の作成

■想定される取り組み

- ・情報発信力の向上
- ・外国人対応の充実
- ・阿蘇らしい景観の保全と育成
- ・復興の目玉となる重点プロジェクト
- ・主要な交通拠点と阿蘇山上における交通網の検討

など

■想定される課題

- ・
- ・
- ・

C 工程表の検討

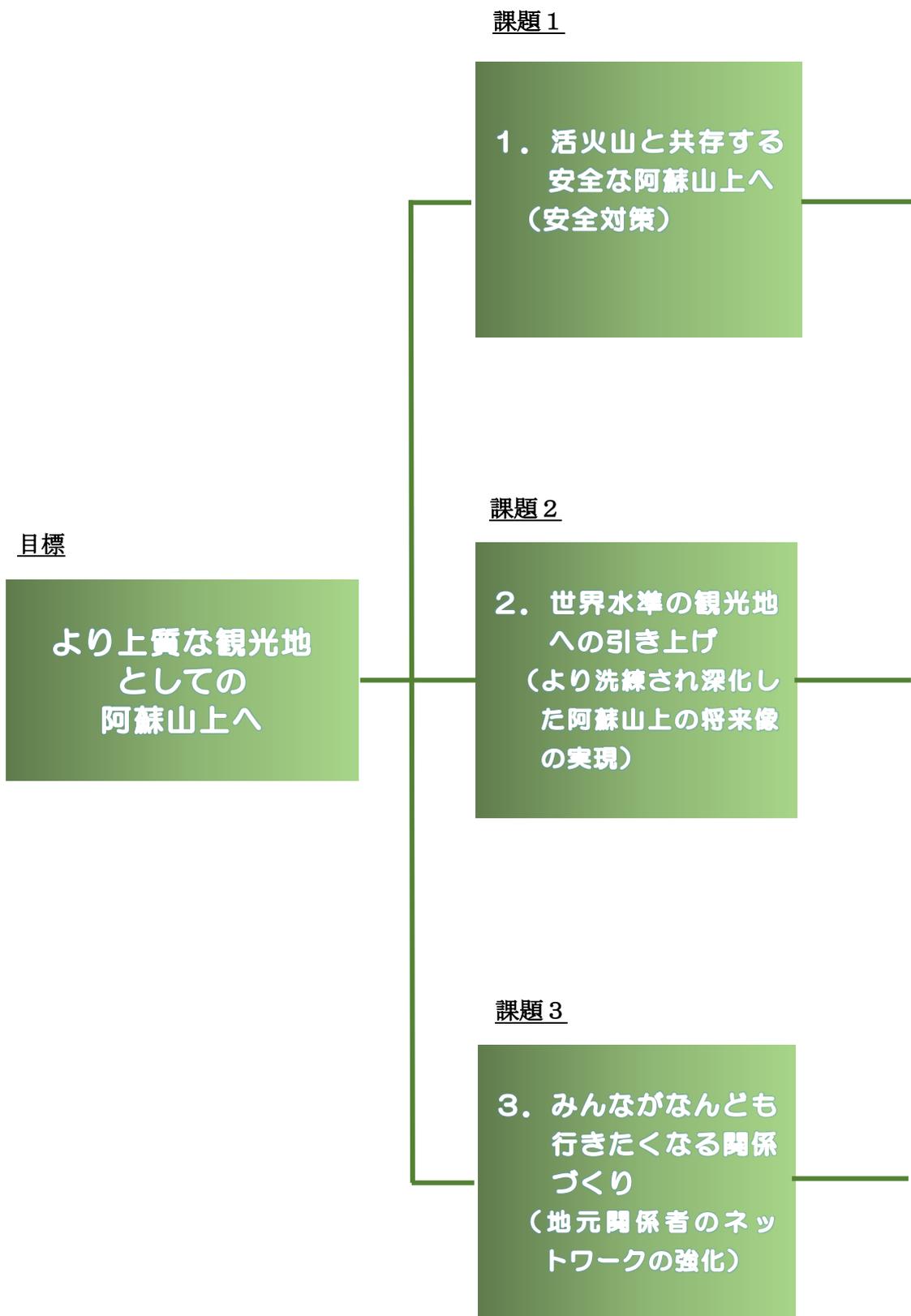
- ・国道57号の復旧による、本格的な観光需要の高まりに備えて、各種の準備を進める
- ・平成29年～32年までの期間を想定する。平成32年には国立公園満喫プロジェクトの目標年度であり、東京オリンピックが開催される

D 役割分担の確認

- ・限られた時間を有効に使い、全面復旧に照準を合わせて、各主体が行動し、目指すべき姿に近づいていくよう役割分担し、全関係者がそれぞれに何をなすべきかを明確にする。

第2章 阿蘇山上復興のための課題整理

- 2-1. 阿蘇山上の課題の設定 —————10
- 2-2. 阿蘇山上復興に関するソフト・ハードの
アイデア(例) ———12
- 2-3. 阿蘇山上の来訪者像の変化 —————14



ハードの対応（案）

ソフトの対応（案）

①緊急時対応の強化／観光客の安全確保
（人数把握の仕組み、退避壕の整備、下山ルート
の確保 など）

②非常時への備え／山上関係事業者のバック
アップ
（基金の創設、従業員雇用の維持 など）

③平常時の備え／危機管理体制の充実
（避難訓練、安全対策の発信、職域防災防犯協
会の強化など）

④レベル3以上となった場合の復興策／ダメ
ージの抑制（業務休止への備え、草千里での
対応、風評被害への対応 など）

・退避壕、避難トンネル
の検討

・新規避難ルートの確保

・米塚園地の活用

・警戒情報伝達の強化

・団体客用の避難所

・避難誘導の役割分担の
点検

・マスコミとの連携（過
大な風評被害を防ぐ）

・熊本県警による初動対
応との連携

・非常時に活用できる基
金の創出

①外国人対応／インバウンドの受け入れ充実
（アクセス、食事、買い物などの外国人客満足
度向上 など）

②環境先進地への取り組み／自然と共存する
先進的な観光地化
（排気ガス対策、環境保全 など）

③阿蘇ジオパークの拠点強化／ラグジュアリー
感の演出、アクティビティの創出（世界ジオパ
ークとの連携、ジオサイトの整備、情報発信 など）

④新たな観光インフラの整備／滞在時間の伸
張
（散策路、宿泊機能の追加 など）

⑤満喫プロジェクト等との連携／国や県、民間
プロジェクトとの連携（持続可能な維持管理
システムの在り方、など）

・火山博物館のリニュー
アル

・魅力的な眺望の開発、
休憩所等の整備

・馬車による草千里～火
口までの新規遊覧ル
ートの創設

・旧道の復活

・案内所の設置

・プロガイドの養成

・外国語スタッフの配置

・外国人対応の社員研修
会

・パークアンドライドの
検討

・プロガイドの養成

・滞在時間を伸ばすため
のコンテンツの創出

①地元食材、職人による阿蘇の文化の紹介
（地元農家と山上レストラン群の協働 など）

②協力体制の強化
（(仮)山上協議会の設立 など）

③若手育成／教育分野との連携
（県下高校との連携、修学旅行の誘致 など）

④宣伝・プロモーション／情報発信の強化
（統一サイトの開設、阿蘇らしい景観づくり
など）

・ジオパーク展示の充実

・山上観光施設のリニュー
アル、デザインの更
新

・景観保全のためのボラ
ンティアセンターの
設置

・ミヤマキリシマの再生

・協議会の設置による協
力体制の堅持

・地元高校生との交流に
よる地元客の誘致

・阿蘇製品の積極的なビ
ジネス展開

・景観維持のためのルー
ルづくり

・ボランティア活動の充
実

・阿蘇山上 HP の開設



仙酔峡

阿蘇山東駅

マウントカー道路の復活

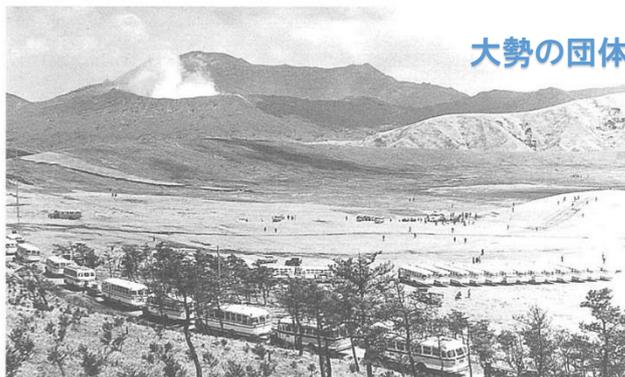
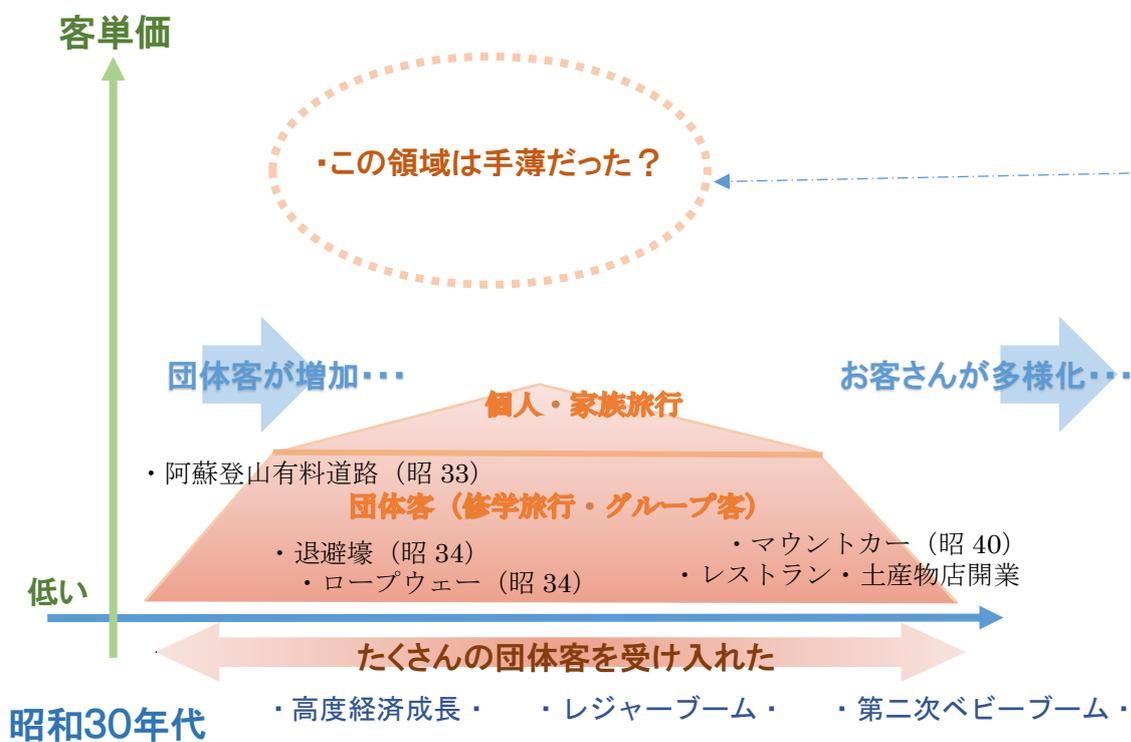
退避壕の整備

2-3. 阿蘇山上の来訪者像の変化

阿蘇山上は昭和30年代に入ると、当時の経済成長を背景に急速に観光開発が進みました。それは、全国各地から訪れる修学旅行などの大量の観光客をもてなすための施設でした。それらは客単価が低くても、収益を生み出すことが出来ていました。

1. 昭和時代（約100万人※）

※昭和44年の阿蘇町の年間宿泊客数



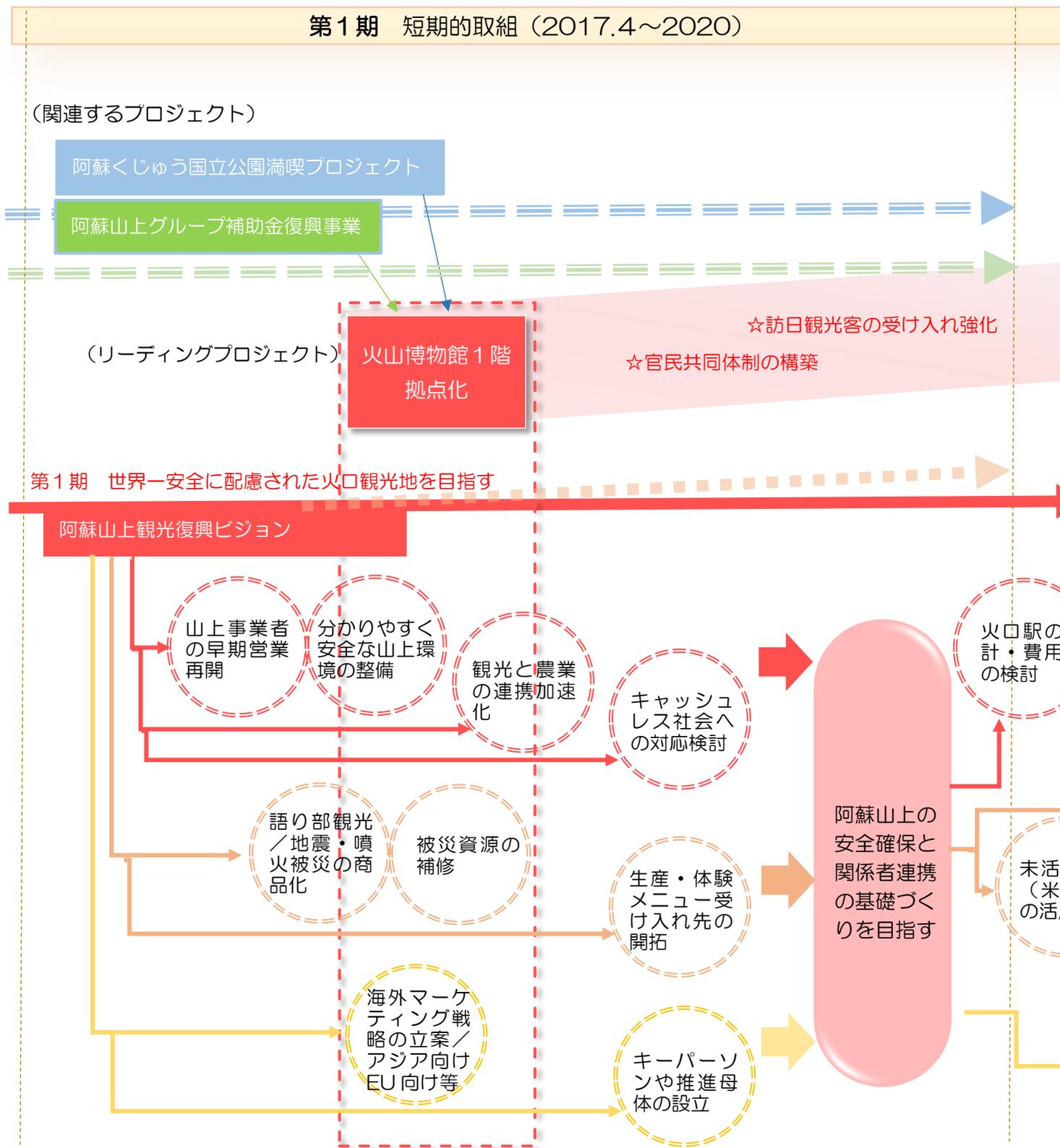
草千里に並ぶ観光バス＝昭和30年撮影（九州産業交通提供）

第3章 阿蘇山上復興の具体化イメージ

3-1. 阿蘇山上観光復興ビジョン具体化のイメージ	—18
3-2. 阿蘇山上復興ビジョンの工程案	—————20
3-3. 阿蘇山上観光復興ビジョンの推進体制	—————24
3-4. 推進協議会に期待される検討の内容と 検討スケジュール案	—————28

3-1. 阿蘇山上観光復興ビジョン具体化のイメージ

これまでの会議の中で、緊急かつ短期間に成果を上げるべき取組みの必要性や、長い時間をかけながら地道に取り組むべき課題などが上げられました。それらは単独の取組みではなく、相互に影響しながら阿蘇山上の新しい姿への脱皮を実現していくものと考えられます。以下に、その一連の流れのイメージを示します。



第2期 中期的取組 (2020~2023)

第3期 長期的取組 (2023~)

2020
東京オリンピック

国道57号
JR豊肥線再開

平成27年噴火より
10年経過

火口駅
安全拠点化改修

☆火口観光をキラーコンテンツ
とした集客力向上

新規施設開業
(宿泊施設等)

第2期 阿蘇山上に地域の力を結集する

第3期 世界へ阿蘇を発信する

自然と人類
の共生を体
感できる、世
界の阿蘇へ

火口駅の設
計・費用等
の検討

地域内連携
ビジネスモ
デルの具体
化

未活用資源
(米塚等)
の活用検討

体験プログ
ラムの充実

体験メニ
ューの販売
と運営組
織の確立

山上駐車場
システムの
検討

山上公的施設
経営の一元化
の検討

阿蘇山上の
環境保全と
収益ビジネス
の両立を
目指す

国内外から
の来訪者の
増加と満足
度の向上

山上の環境保
全及び施設運
営のための財
源確保

様々なプログ
ラムメニュー
の派生による
地域参画の増
加

自然と人類
の営みの共
生を体感で
きる阿蘇山
上の環境が、
持続的に維
持できるこ
とを目指す

3-3. 阿蘇山上観光復興ビジョンの推進体制

検討課題ごとの工程表案を以下に示します。

	短期		
	平成 29 年(2017)	平成 30 年(2018)	
平成 28 年熊本地震被災・同年噴火被災からの復興スケジュール（見込み）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県道 111 号復旧（5 月） ・ 草千里展望所（12 月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山上給水施設（3 月） 	
社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本ジオパーク再認定審査 ・ 阿蘇くじゅう観光圏完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界ジオパーク再認定審査 ・ ブランド観光地域認定？ 	
課題 1. 活火山と共存する安全な阿蘇山上へ（阿蘇火山防災会議協議会との連携による安全対策）			
事業名（仮）	事業主体（案）	平成 29 年(2017)	平成 30 年(2018)
1 退避壕・監視所再整備	国・県・市	調査・設計	施工
2 新規避難ルート確保	国・県・市		調査・立案
3 火山ガス対策の充実	国・県・市	予備調査	本調査
4 警戒情報伝達強化システム	国	現状調査	設計
5 未活用資源（米塚下園地等）活用	市・牧野組合		
6 避難誘導の役割分担	関係者		
7 発災時の初動対応連携検討	国・県・市	検討会立ち上げ	
8 マスコミとの連携（情報発信）	市・報道機関		
9 非常時対応基金設立の検討	市		
課題 2. 世界水準の観光地への引き上げ（より洗練され深化した阿蘇山上の将来像の実現）			
事業名（仮）	事業主体（案）	平成 29 年(2017)	平成 30 年(2018)
1 火山博物館リニューアル	博物館・環境省	ニーズ調査	ガイダンス施設等設計
2 休憩所や眺望点の新設	国・県		可能性調査
3 馬車による新規遊覧ルート整備	市・事業者	可能性調査	ルート整備調査
4 旧道（マウントカー道等）可能性	国・市・防災協	可能性調査	安全対策検討（東火口側）
5 観光案内所の設置	市・観光協会	比較検討	建築設計
6 プロガイドの養成	ガイド協会		養成講座立ち上げ
7 外国語対応（人員配置・研修）	関係者	ニーズ調査	実施
8 山上駐車場システム検討	官民関係者		
9 コンテンツ創出	事業者	ニーズ調査	企画検討

短期	中期		長期
平成 31 年(2019)	平成 32 年(2020)	平成 33 年(2021)以降	平成 39 年(2027)以降
・市道仙酔峡線 (3 月)	・立野トンネル開通? ・JR 豊肥本線復旧?		
・ラグビーワールドカップ ・女子ハンドボール世界選手権	・東京オリンピック パラリンピック (8 月)		
平成 31 年(2019)	平成 32 年(2020)	平成 33 年(2021)～	平成 39 年(2027)
設計	施工		
施工			
ニーズ・シーズ調査			
検討会立ち上げ			
			検討会立ち上げ
平成 31 年(2019)	平成 32 年(2020)	平成 33 年(2021)～	平成 39 年(2027)
施工			
設計	施工		
設計・施工			
道路設計・安全施設設計	施工		
施工			
※以降継続			
※以降継続			
	検討会立ち上げ	現状・ニーズ調査	可能性調査
体制確立	実施	※以降継続	

課題3. みんなが何度も行きたくなる関係づくり（地元関係者のネットワーク強化）			
事業名（仮）	事業主体（案）	平成 29 年(2017)	平成 30 年(2018)
1 ジオパーク展示の充実	博物館・ジオ協	ニーズ調査	展示物等設計
2 山上観光施設のリニューアル	事業者・市	ニーズ調査	デザイン検討
3 景観保全ボランティアセンター	市		
4 ミヤマキリシマ再生	有志団体	枯死状態調査	再生活動
5 協議会設立（協力体制構築）	官民協働体	設立・キックオフイベント	※以降継続
6 地元高校生による地元客誘致	県教委・関係者		
7 阿蘇産品の積極的ビジネス展開	事業者・市		ニーズ調査
8 景観維持のためのルールづくり	市		
9 阿蘇山上ホームページ開設	事業者・市	開設準備・開設	※以降運用
10 阿蘇山上バス停の移設	九州産交	移設調整	移設

平成 31 年(2019)	平成 32 年(2020)	平成 33 年(2021)～	平成 39 年(2027)
施工			
実施			
	ニーズ調査	設計	施工
※以降継続			
	検討会立ち上げ	実証実験	以降継続
試作品販売	事業化	※以降継続	
現況調査	ルール策定	※以降運用	

1. 推進協議会の検討課題

阿蘇山上の観光復興のために取り組むべき課題には、スピーディーに対応し、短期的に成果を挙げるために集中して検討が必要なものと、丁寧に合意形成を進めながら焦らずに検討を進めていくものがあります。

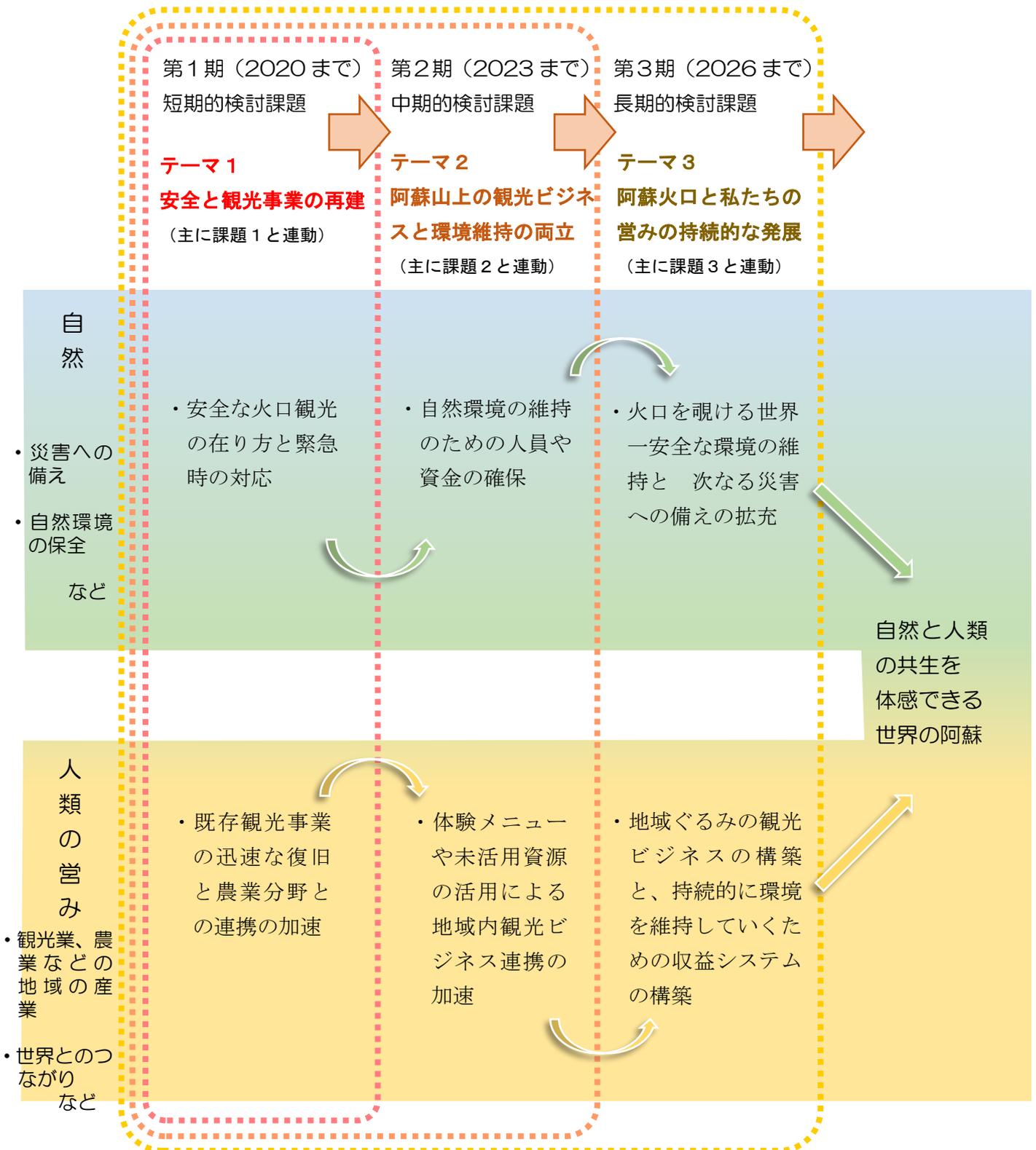
短期的（第1期）に検討すべきものとしては、その期間を 2020年の東京オリンピック開催や国立公園満喫プロジェクトの終了などのタイミングと考えると、訪日観光客が増加することへの準備として整理することができます。その観点から、**①安全確保、②山上事業者の業務再開、③観光と農業の連携、④キャッシュレス社会への対応**などが上げられ、安全と観光事業の再建がテーマとなります（主に課題1と連動）。

次の段階（第2期）として、2023年頃を節目にして火口観光をキラーコンテンツとして集客力の更なる強化を目指すことを想定します。また、このタイミングで国道57号やJR豊肥線の全線復旧が期待され、本格的に阿蘇への来訪が復活することへの備えです。その観点から、**①地震・噴火体験の商品化、被災資源の補修、②生産や体験メニューの充実**などの既存の観光資源を整備することに加えて、**③未活用資源の活用**などの新たな魅力の開拓を行い、阿蘇山上への来訪の動機を増やしていくことを行います。また、公的施設経営の一元的管理などによる環境維持の財源確保の道筋も明らかにしていく必要があります。阿蘇山上の観光ビジネスと環境維持の両立がテーマとなります（主に課題2と連動）。

それらの成果を踏まえて、熊本地震より10年が経過する 2026年頃を目指して（第3期）、新しい阿蘇山上の姿を具体化するタイミングを迎えます。それは、自然と人類の営みの共生が実現し、世界各地からその様子を多くの人が見学に訪れる阿蘇の姿です。そのために、**①海外向けのマーケティング戦略の立案、②中心的な役割を果たす推進母体の設立、③体験プログラム等を活用した観光商品の販売**などに取り組みます。来訪者の満足度向上や、収益から環境保全を継続し、阿蘇の火口と私たちの営みの持続的な発展をテーマとします（主に課題3と連動）。

上記の3つのテーマの検討課題を、時間軸に沿って進めていくと右図のように整理することができます。

図：推進協議会の検討課題



2. 推進協議会の規約案

推進協議会は以下のような趣旨の下に設立するものとして、本復興ビジョンを推進し、具体化していくための母体とします。

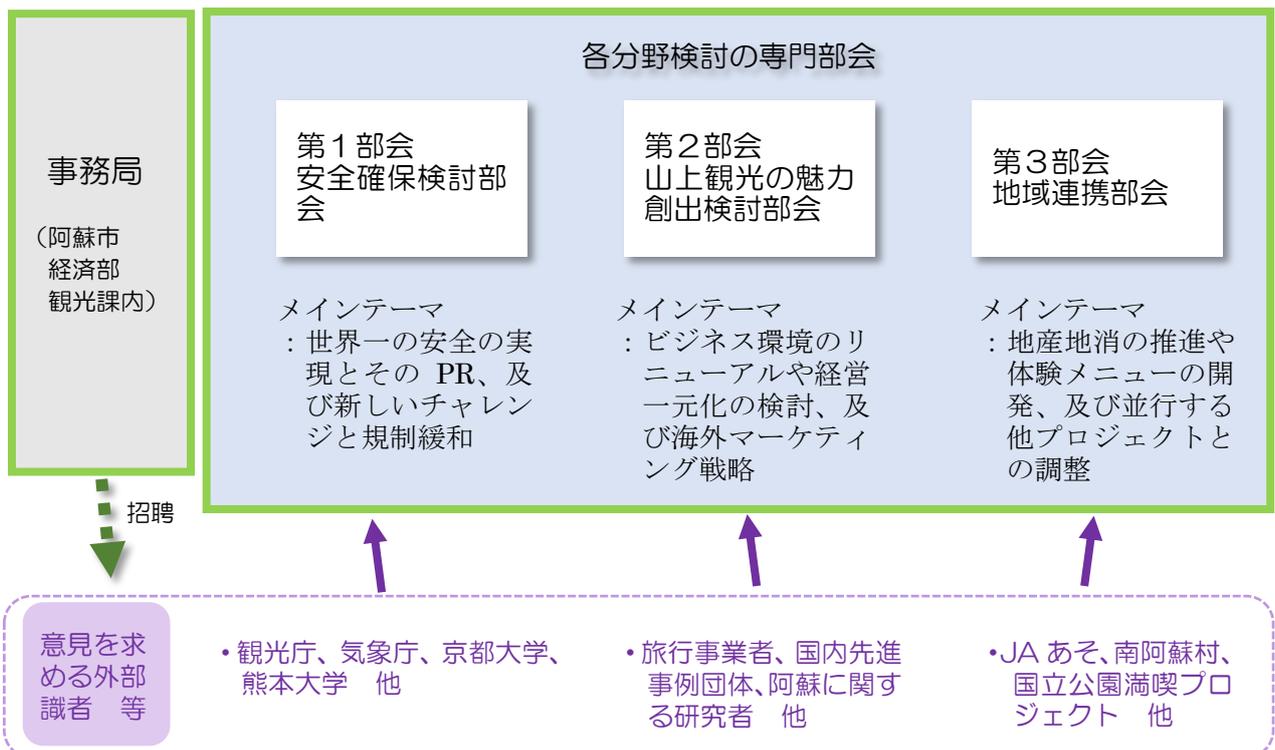
- (1) 設立意図：阿蘇山上の観光を復興するにあたり、その稀有な自然環境と観光ビジネスの共存を意図し、世界に対して自然と人類の営みの両立の素晴らしさを提示していくことを目指します
- (2) 会員：阿蘇山上の安全確保、観光ビジネス、施設運営に関わる民間事業者、行政関係者、学識経験者からなるものとします。
- (3) 設置期間：平成 29 年 4 月から 10 年間
- (4) 活動内容：阿蘇山上の関係者が力を合わせて取り組むべき課題を、短期・中期・長期の達成目標ごとに検討を行い、段階的に新しい阿蘇山上の姿を構築していくための意思決定を行います。
- (5) 事務局：検討のための事務局を阿蘇市経済部観光課内に置き、円滑な課題検討を促し、推進協議会の意思決定をサポートします。
- (6) その他：

3. 推進協議会の体制

阿蘇山上観光復興ビジョンを推進していくために、3つの観点から検討を行う専門部会を設け、それぞれに関連する分野の専門家や関係者の知見を踏まえながら分野ごとにリアリティの高い検討を進めます。

専門部会での検討結果は、阿蘇山上観光復興推進協議会（仮称）で調整を行い、メンバーが個々の立場で主体的に取り組みつつも、阿蘇山上の将来像を全員で共有しながら復興に向けて進んでいくこととします。また、阿蘇地域全体への波及効果を引き出すために、南阿蘇村などにも参加を呼び掛けていきます。

図：推進協議会の検討体制



表：検討会の開催回数

課題 1. 活火山と共存する安全な阿蘇山上へ（安全対策）				
事業名（仮）	事業主体（案）	（短期） 2回／年	（中期） 1回／年	（長期） 2回／年
1 退避壕・避難トンネル検討	国・県・市			
2 新規避難ルート確保	国・県・市			
3 未活用資源（米塚園地等）活用	市・牧野組合			
4 警戒情報伝達強化システム	国			
5 団体客用避難所検討	市			
6 避難誘導の役割分担	関係者			
7 県警との初動対応連携検討	県警・関係者			
8 マスコミとの連携（情報発信）	市・報道機関			
9 非常時対応基金設立の検討	市			
課題 2. 世界水準の観光地への引き上げ（より洗練され深化した阿蘇山上の将来像の実現）				
事業名（仮）	事業主体（案）	（短期） 2回／年	（中期） 2回／年	（長期） 1回／年
1 火山博物館リニューアル	博物館・環境省・県			
2 休憩所や眺望点の新設	国・県			
3 馬車による新規遊覧ルート整備	市・事業者			
4 旧道（マウントカー道路等）再開	国・市			
5 観光案内所の設置	市・観光協会			
6 プロガイドの養成	ガイド協会			
7 外国語対応（人員配置・研修）	関係者			
8 山上駐車場システム検討	官民関係者			
9 コンテンツ創出	事業者			
課題 3. みんながなんでも行きたくなる関係づくり（地元関係者のネットワーク強化）				
事業名（仮）	事業主体（案）	（短期） 2回／年	（中期） 2回／年	（長期） 2回／年
1 ジオパーク展示の充実	博物館			
2 山上観光施設のリニューアル	事業者・市			
3 景観保全ボランティアセンター設置	市			
4 ミヤマキリシマ再生	有志団体			
5 協議会設立（協力体制構築）	官民関係者			
6 地元高校生との交流による地元客誘致活動	県教育委員会 地元関係者			
7 阿蘇製品の積極的なビジネス展開	地元事業者			
8 景観維持のためのルールづくり	市			
9 阿蘇山上ホームページ開設	事業者			
10 草千里バス停の移設	産交			

阿蘇山上観光復興ビジョン（2017年3月）

発行者：阿蘇市長 佐藤義興

住 所：〒869-2695 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 504 番地 1

TEL：0967-22-3174 FAX：0967-224566 E-mail：turismo@city.aso.lg.jp